



まちの話題



7月4日[Fri]

公立佐賀中央病院 完成記念品贈呈式



▲作品は公立佐賀中央病院の中央待合付近に設置されています

多久市立病院と小城市民病院を統合した「公立佐賀中央病院」（東多久町）が、7月1日(火)に開設したことを記念し、公立佐賀中央病院完成記念品の贈呈式が行われました。

式では、画家・池田智さん制作の作品を病院建設工事に携わった中野・モロドミ・中島建設共同企業体から贈呈いただきました。贈呈された記念品には、観覧車のように気持ちがあがり上を向いていけるような願いが込められています。

横尾俊彦市長は「この作品のように既成概念に囚われず、新しい医療をみなさんに提供する使命を果たせるよう佐藤院長を中心に尽力していきます」と今後の意気込みを話しました。また、池田さんは「アートがもたらす視覚的な癒しとともに、よりよい医療を提供し続けるこの病院が多くの方々にとって、心も身体も癒される場所となることを願っています」と思いを込められました。



7月5日[Sat]

朋来七夕市を初開催！



▲会場にはたくさんの願いが込められた短冊が飾られています

多久市で新たに始まるマチアソビをテーマに、今年度から地域おこし協力隊として活動する瀧一晃さんが「孔子楽座2025 朋来七夕市」と題したマルシェを開催しました。

会場となった多久市物産館朋来庵の自由広場には、キッチンカーや多種多様なブースがずらり。市外からの来場者は「イベントを楽しみながら多久聖廟も観光でき、楽しい小旅行となりました」と笑顔で話されました。

瀧さんは「多久市のみなさんに新しいことを知ってほしくて市外の店を中心に参加してもらいました。これからもマルシェを開催するので、出かけるきっかけにしてほしいです」と今後も楽しいおでかけの提案を続けるそうです。

7月13日[Sun]

第35回 諸田賢順を偲ぶ会



▲賢順を偲んで箏と尺八の合奏が披露されました

筑紫流箏曲の創始者で「題名のない音楽会」で取り上げられた、多久市にゆかりのある僧侶・諸田賢順（1534～1623年）に思いを馳せる「諸田賢順を偲ぶ会」（主催：多久市文化連盟）が、専称寺（多久町）で開催されました。この会は毎年、賢順の命日に合わせて開かれています。

当日は川副春海住職の読経の後、箏と尺八の合奏や詩吟、和歌が献曲されました。多久市文化連盟の野田勝人会長は「箏の良さや賢順先生の功績を周知するために続けています。これからは啓発に努め、裾野を広げていきたいです」と挨拶されました。

市内からの参加者は「以前テレビで素晴らしい演奏を聞き、今回足を運びました。お寺での生演奏もよかったです」と感想を話されました。

